

## 「森友学園問題は日本の縮図である」

2017年03月29日

連日、報道されている森友学園問題は現在の日本社会を映し出す縮図のように見える。森友学園が運営する幼稚園では園児たちに「教育勅語」を暗誦させ、軍隊的に規律正しい言動を訓練していた。安倍晋三首相夫人の昭恵氏は、「優れた道德教育を基として、日本人としての誇りを持つ、芯の通った子どもを育てる」教育がなされていると感動し、3度講演に行き、一時ながら名誉校長を務めた。安倍首相も自分の教育方針に近いと称賛し、日程が許せば講演に行く予定であった。教育勅語の「父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相和シ」という道德が、戦後教育で失われた今、必要であると言うが、根本は「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ、以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」という天皇のために命を捧げよとの教えである。戦後、主権在民の下で否定された教育理念である。天皇神格化を持ち出すアナクロニズムには唾然とする。背後には明らかに「日本会議」の意向が働いている。このような時代錯誤の教育を良いとする政治家たちが多くなっている訳で、民主主義と平和の憲法が危うくなっている現状に深い危機を覚える。

森友学園問題の核心は、① 国有地が異常な安値で売買されたこと、② 新設小学校の認可が早急に下ろされたことの二つの疑惑である。① に関しては、8億円以上もの値引きは47%もあるゴミ撤去費用を差し引いたからだと言う。更に、値引きした金額を10年間の分割払いでよいとされ、森友学園は一括購入を決めた。常識ではあり得ない優遇措置であるが、政治的圧力や忖度はなく、正規の手続きで行ったそうだが、② に関しては、土地取得が確実だから、森友学園の申請に沿った形で、認可適当の判断を下した。考えられないスピードと優遇の下で、神風が吹いたかのように土地取得と認可を得た訳である。この間、違法や不正はなく、しかもその手続き関連資料は破棄されたと言うから、驚くばかりである。多くの国民は政治家の関与、役人の忖度があった、忖度以上の強力な力が働いたと思っている。ところが、誰も責任を取らずに納めようとしている。曖昧さの中で、誰にも責任を負わせない無責任体制をまたもや見せられるのであろうか。

森友学園の籠池泰典理事長は小学校の認可や助成金申請のために各関係省庁に金額の違う三通の建設工事費の契約書を建設業者に作成させ、提出していた。金額の違いは3倍近くになっている。学園に都合よく運ぶように操作したのであろうが、縦割り行政を知る役人からの入れ知恵があったのではないかとも思える。

安倍首相夫人の昭恵氏が「安倍晋三からです」と差し出した100万円の寄付金については、籠池氏の発言に真実味がある。安倍首相は自分や妻が関わっていたら、首相はもちろん代議士も辞めると豪語していた。昭恵氏を通して深い関係があったことが暴露された。

自民党・公明党の政治家たちは、安倍首相を守ろうと懸命である。籠池氏は嘘つきで、悪者であると言いつらそうとしている。確かに、籠池氏は生徒募集を有利にしようと有名中学校の推薦枠があると記載したり、経歴詐称もあるようだ。しかし、与党の政治家、役人たちは国民に真実を知らせようとする姿勢はみじんもなく、形振りかまわず、政権維持のため、黒を白と言いつ張っているように聞こえる。見苦しい限りである。

憲法を無視した極端な右傾化、政治家、役人たちの公僕としての誠実さを欠いた態度、一極に肥大化した安倍政権に媚びる忖度が罷り通っている現実を如実に表している。政治の退廃、人心の荒廃はここまで来たのかと、心が萎えてしまう。現在の日本を映し出したこの状況を立て直すことができるのであろうか。国民はしっかり目を覚まし、真実を明らかにしていかなければ、日本は内側から腐ってしまう。